

# 静かな空を もとめて

第3次新横田基地公害訴訟  
原告団ニュース

2022/10/10  
第1号



## 10月31日締め切り原告追加募集で大きな原告団を

### 東京地裁立川支部へ提訴

6月20日に東京地裁立川支部に原告1,282名で提訴しました。

いっこうに減らない米軍機の騒音。2018年からは危険な飛行機 CV-22 オスプレイが横田基地に配備され、訓練が激化しています。低空飛行や夜間飛行が私たちの頭の上で繰り返されています。

ぜひ、オスプレイの全面飛行差し止めを勝ち取りたい。違法な騒音被害をなくしてほしいというのが私たちの切実な願いです。

当日は原告69名が現地参加。昭島市が提供してくれたバスに乗り合わせて来たり、タクシーを使っただけの参加などで裁判所前は熱気にあふれました。また、弁護団17名がこの裁判を勝利させようと意気高く結集。コロナで大変な中、全国公害被害者総行動、基地裁判をたたかっている全国基地爆音訴訟原告団連絡会議の代表など6団体9名が連帯のために駆けつけてくれました。

奥村団長は「世界情勢が緊迫している中、横田基地の騒音被害は増大している。解消するため、裁判の勝利を勝ち取ろう」と決意表明。提訴手続きに向かう代表5名を大きな拍手で送りだしました。

弁護士会館での報告集会では第五次厚木基地爆音訴訟原告団、横田基地公害訴訟準備会、厚木基地爆



東京地裁立川支部前での提訴行動

音防止期成同盟からエールが。団長はマスコミからの質問にこたえ騒音の実態やこの裁判にかける思いを力強く訴えました。NHKをはじめ主要新聞社が記者会見に参加しました。

### 10月31日締め切りで 原告の追加募集中

第1次の原告1282名による提訴に続き、追加の原告募集を行っています。

ご家族で第1次提訴に間に合わなかった方などぜひ申し込みをしてください。

まだ間に合います。隣近所、お知り合いにも声をかけてください。

発行 第3次新横田基地公害訴訟原告団

〒197-0003 東京都福生市熊川1655-3 白鳥第2ビル302号 TEL/FAX 042-552-4451

## 原告団 結成総会

# 訴訟と活動の方針を決定



各地域から会場とオンラインで参加

5月29日、昭島市民交流センターで原告団結成総会を開催しました。コロナ感染にも配慮し人数制限をしたうえでZOOMによる参加者もふくめ60名で開催いたしました。

参加者の活発な論議があり、賠償額として原告1名月額2万2千円を国に求めることなどが確認されました。

そのうえで準備会の活動報告、原告団の活動方針、団規約および予算が可決されました。

また、団長・副団長を始めとした17名の新役員が選任されました。

新役員の役職・氏名は右記のとおりです。

団長に選任された奥村さんは、就任挨拶で、「横田基地機能が強化される中で、新しい役員体制の下で、厳しい裁判ながらも明るく元気に1200人を超える原告とともに「静かな空を求めて」たたかいたい。6月20日の第一陣の提訴に向けて30人の弁護団とともに頑張りたい。2021年12月の原告募集開始から半年たらずで前回訴訟を超える原告が加入。そこに確信を持ち頑張っていきましょう。」と決意を述べました。

### 周辺自治体や全国の団体から声援

総会には全国基地連の金子豊貴男代表が参加され、ともにたたかう決意を表明されました。

弁護団・事務局長の小林善亮弁護士から、この裁

判でどのようなことを求めていくのか、裁判を起す意義などが説明されました。

昭島市、日野市、福生市、瑞穂町等の横田基地周辺の市長・町長からメッセージが寄せられたほか、厚木、嘉手納、普天間、小松、新田原など、全国で基地騒音訴訟に取り組む原告団からの激励のメッセージも公開されました。総会の締めくくりは、参加者全員で今後の裁判及び運動を団結して盛り上げていく決意表明を行いました。

## 新役員

【団長】奥村 博（昭島市）

【副団長】御供所弘人（福生市）

後藤千恵子（八王子市）

【事務局長】北村 正（八王子市）

【事務局次長】永川勝則（昭島市）

【会計】岡口 明（瑞穂町）

【幹事】大坪國廣（瑞穂町）、大坪たづ子（瑞穂町）、掛谷昇治（昭島市）、立石正之（八王子市）、堤崎榮造（日野市）、中島利美（八王子市）、星野 慧（日野市）、曲山春男（昭島市）、矢口 隆（福生市）

【会計監査】竹内裕次郎（昭島市）、横田 博（八王子市）

# 「みなさんと思いは同じ」——

## 周辺自治体から協力と共感の声



瑞穂町での要請の様子

8月10、16、18日、周辺自治体に提訴の報告と要請を行いました。

瑞穂町、福生市、八王子市、日野市、立川市、入間市、飯能市、昭島市と懇談を行いました。各自治体とも事前に要請の趣旨をお伝えして時間などを詰めての訪問であったため、担当部長や課長などが対応。原告団、弁護団の要請にこたえてくれました。

7市1町での懇談では今後原告団との意見交換の場を設けることや騒音データや資料の提供など協力するとの回答を得ることが出来ました。

また低周波音測定について自治体として国に対する要請をおこなってほしい、オスプレイのホバリングによる低周波音の被害に向き合い、対応してほしいことも強く求めました。

## オスプレイの飛行停止求め防衛大臣へ要請

9月9日、原告団と弁護団は、「住民を危険にさらすCV-22 オスプレイの飛行停止を強く申し入れるよう求める」要請書を、浜田靖一防衛大臣に渡すよう、北関東防衛局横田防衛事務所の和田所長に手渡しました。

裁判では、オスプレイの飛行差し止めを目的に掲げていることから、「オスプレイの不具合、飛行停止にいたった核心部の構造問題が解決したわけでもない。米軍の説明を鵜呑みにせず、不具合の根本原因の解明や原因を除去する責任がある。不明のまま飛行再開は到底容認できない。」など30分にわたりやりとりをしました。

その後に立川記者クラブで、要請のやり取りや訴訟の状況と、飛行再開の実態を動画で紹介し、騒音被害のひどさを感じてもらいました。



記者会見で要請について説明する原告団  
写真・東京新聞9月10日より転載

## 原告の声

## 同じ苦しみ抱える方々と

瑞穂町 佐々木めぐみ

6月20日、地方裁判所立川支部の提訴に参加しました。その時、同じ騒音の苦しみをわかって頂ける方々がこんなにも、いらっしゃるのだと、心強く思い、心配もありましたが、うれしさが湧いてきました。日々オスプレイの轟音や振動に悩まされ、身体的、精神的に辛い日々を過ごしている時に第3次新横田基地訴訟の話聞き、すがる思いで原告団に入りました。直ぐには解決する話ではないことは、重々承知しておりますが、日々の穏やかな生活のためにも、原告団の方々と一緒にたたかうと強く心に思っております。長いたたかいになると思いますが、私は負けません。がんばります。

## 昭島支部も頑張ります

昭島市 永川勝則

昭島支部は第3次訴訟の準備会の取り組みとして、5回の地域説明会、新興住宅への訪問活動、ネットによる申し込みなど、415名が第1陣として訴訟に参加しました。新しく原告として参加した人が約三分の一です。6月20日の提訴には昭島市の全面協力で貸し切りバスで地裁立川支部に向かいました。80W地域で、家族3名で原告に参加した方は「オスプレイをはじめ飛行機の騒音にはもう我慢できません。今まで無関心でいたけど、今回は原告に参加し勝利したいです。平和な昭島を取り戻したい」「今回は原告になれませんが原告団を全面的に支持します」など多くの市民が関心を寄せています。追加募集のため都営住宅(250世帯)への訪問活動を実施して、新たな参加者が多数ありました。引き続き10月末までの原告募集に取組み昭島で500名を超す原告団を目指します。

## 各地域から第3次裁判にかける思い

## 人間らしい暮らしを

瑞穂町 桜井 久

5月29日の結成総会を経て、6月20日の地裁提訴(事前集会、入廷行進、報告集会)に参加しました。いつも見慣れた故団長、故事務局長の姿はもういない。今までの感謝の気持ちで、しみりとしましたが、新たな原告団、弁護士さんのもとで頑張ろうと改めて決意した次第です。瑞穂支部では清水幸一さんが亡くなり、私が支部総会で支部長の任を受けることになり、「青天の霹靂」ですが82才の挑戦として、人間らしい暮らしが出来るよう第3次訴訟の要求前進・実現に向け頑張りたいと思います。

## オスプレイの飛行停止求め

八王子市 後藤千恵子

私が住んでいる八王子は横田基地から6キロも離れた場所ですが多摩川から高台になっており、うるささ指数80Wの地域です。オスプレイは私たちの上空で飛行モードからヘリモードに変換するのを何回も見ました。モードを変換するときが一番危ないと第2次訴訟の時に学びました。今回、米軍がオスプレイ事故を考えて飛行停止にしましたが原因がわからないまま飛行再開をしました。いつ墜落してもおかしくない状況です。さらに原告を増やしてオスプレイの飛行停止を求めて皆さんとともに頑張ります。



民家のすぐ近くを低空飛行するオスプレイ